

社会資本総合整備計画  
都市再生整備計画 事後評価シート(原案)  
東西三股地区

平成28年11月

宮崎県三股町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮崎県	市町村名	三股町	地区名	東西三股地区			面積	900ha
交付期間	平成24年度～28年度	事後評価実施時期	平成28年度	交付対象事業費	705.4(百万円)	国費率	0.296		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名							
	基幹事業		ふれあい中央広場、情報板、駅前広場							
	提案事業		雨水対策事業(五本松地区)、事業効果分析調査							
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
	当初計画から削除した事業		基幹事業		なし					
			提案事業		なし					
		新たに追加した事業		基幹事業		上米公園パークゴルフ場		町内外からの人気が高く、町民交流推進の一躍を担っている本施設について、芝生の養生・再生作業に関わらず、継続的に利用ができるようにするため、事業を追加。		指標3「交流施設の利用者数」の目標値を情報修正。
				提案事業		西部地区体育館建設事業		町民ニーズおよび対象地域に不足している機能であることを勘案し、事業を追加。		指標3「交流施設の利用者数」の目標値を情報修正。
交付期間の変更		当初		-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-		
		変更		-						

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	公共交通機関利用者数		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	あり	なし				
			人/年							192,362	H22	192,362	H28
指標2	主要スポットの観光客数	人/年	168,630	H22	168,630	H28	-	173,495	○	あり	情報案内板の設置や本計画での整備基盤(ふれあい中央広場)における新たなイベントの開催等により、目標値を上回る観光客数が得られた。	平成29年5月頃	
指標3	交流施設の利用者数	人/年	50,000	H22	70,000	H28	-	79,637	○	あり	本計画で整備した交流施設の整備内容が、町民・利用者ニーズが高かったことから、目標値を上回ったといえる。	平成29年5月頃	

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	公共交通機関の生活支援利用者数(町中心拠点と集落間)		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	あり	なし				
			人/年							8,318	H22	-	12,279
その他の数値指標2	地域資源を活かした「まちの魅力」向上に関する満足度	点	0	H22	-	0.80	-	0.80	-	あり	本計画の事業が町民理解が得られるものであり、事業に関する情報発信も図られていることを示しているといえる。	平成29年5月頃	

4)定性的な効果発現状況  
 ・本計画で実施した事業(「豊かで住みよいまちづくり」「活力あるまちづくり」に資する事業)や整備基盤を活かしたソフト的な取り組みは、まちの情報発信力や魅力向上等に寄与しており、これまでの三股町の人口増加に貢献していると考えられる。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-	
	住民参加プロセス	西部地区体育館建設において、住民(小学生)が関わる取り組みの実施(「かなえ夢！未来は無限の可能性プロジェクト」の実施)	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	今後も、町民の愛着がわく公共施設整備に努める。	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-		
都市再生整備計画に記載し、実施できた			●			
持続的なまちづくり体制の構築	駅周辺の賑わい創出を目的とした、まちづくり体制の構築・強化を図った。	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	町民主体の活動を推進し、町は後方支援に従事する。		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-			

## 様式2-2 地区の概要

### 東西三股地区(宮崎県三股町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
魅力や賑わいにあふれる中心市街地の再構築と地域資源の活用を図り、「豊かで住みよい活力あるまちづくり」を目指す。 ①生活拠点としての中心市街地の賑わいを再生し、町民・行政協働によるイベントの企画・運営等が持続する「活力あるまちづくり」を目指す。 ②自然、人、もの、もてなしの心が備わった観光地整備を図るとともに、町民交流を推進し町民総参加の「豊かで住みよいまちづくり」を目指す。	公共交通機関利用者数	単位:人/年	192,362 H22	192,362 H28	H28
	主要スポットの観光客数	単位:人/年	168,630 H22	168,630 H28	173,495 H28
	交流施設の利用者数	単位:人/年	50,000 H22	70,000 H28	79,637 H28
	公共交通機関の生活支援利用者数	単位:人/年	8,318 H20		12,279 H28
	地域資源を活かした「まちの魅力」向上に関する満足度	単位:点	0 H20		0.80 H28

・JR三股駅前広場の整備と活用状況



・西部地区体育館



・西部地区体育館建設にあたって住民が関わる取り組み (案に「未来の自分へのメッセージ」を描く)



・観光案内板



#### まちの課題の変化

・本計画では、交流人口を増やすための取り組みとして、イベント等に活用できる「ふれあい中央広場」の整備とその活用促進等を図るとともに、交通結節点の強化に資する取り組みを実施した。これらの取り組みに加えて、町民主体による駅周辺の賑わい創出を目的としたまちづくり活動が活発に開催されてきたこと等により、町民のまちなかへの外出機会の増加・まちなかの魅力向上が図られた。

・本町は、近年においても人口が増加しているものの、その増加状況は鈍化傾向にある。特に、若者の人口動態においては転出増加・転入減少傾向にあり、町の中央地区においては人口が減少傾向にある等、これまでの状況から変化しつつある。今後も継続した人口維持のためにも、上記の課題解決が不可欠である。

・町内の観光スポットや主要な祭りを表示した「情報案内板」を設置するとともに、整備した「ふれあい中央広場」等において、交流人口を増やす新たなイベント等を開催し、観光客数が増加したことを確認した。但し、観光スポット個別での観光客数を確認すると、横ばい・減少の観光スポットもあることから、更に観光客数を増やすことが課題として残っている状況といえる。

・本計画で、町民ニーズが高く、地域コミュニティ活性化につながる交流施設整備を実施した結果、目標を上回る積極的な施設活用に至った。

・高齢人口比率は増加傾向、年少人口比率は減少傾向にあり、高齢者に配慮した取り組みや子育て支援を図る取り組みの更なる強化が必要といえる。

#### 今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・中心市街地の継続的な賑わいの創出を図るために、駅前広場の効果的な維持管理とその利活用の支援、公共交通機関の利用促進を図る。

・既存イベントや街なかでの新規の賑わいイベントについて、継続的な開催を図る。

・地域コミュニティ活性化につながる交流施設(上米公園パークゴルフ場、西部地区体育館、ふれあい中央広場)について、利活用と効果的な維持管理を図る。

・本町が持続的に「自立と協働で創る 元氣なまち 三股」として発展するために、若者の定住・移住の促進・人口維持を図る。

・各観光スポットの取り組みやスポット間の連携、広域的な視点での取り組み等により、観光スポットにおける魅力の向上・観光客数の増加に努める。

・高齢者が住み慣れた地域で元気に暮らせるまちづくりや、子育て世代に支持されるまちづくりの展開を図る。